

平成29年度 学校評価表

※達成度は、目標値に対する評価値の割合。(評価値/目標値) ※評価 A(目標達成):100≦ B(ほぼ達成):70≦, <100 C(できていない):<70 ※学校関係者評価 A:達成できている B:概ね達成できている C:できていない

評価計画										学校関係者評価				
評価項目	中期経営目標	短期経営目標	担当分掌	目標達成のための方策	評価指標	目標値(A)	資料	評価値(B)	達成度(B/A)	評価	結果と課題の説明	評価	コメント	
								アンケートは1月統計は2月						
学習指導	学力の向上	望ましい学習習慣の形成	教務	①授業の始めと終わりの時間厳守とあいさつの徹底 ②学習規律の確立を目指した授業づくり	わたしは、授業に積極的に取り組んでいる。	90%	アンケート(生徒②)	87%	97%	B	①生徒の「授業に積極的に取り組む」姿勢は、昨年度より若干数値が上昇した。さらに生徒が主体的・意欲的に授業に取り組めるよう、授業改革などを継続していく必要がある。 ②課題に対して、家庭できちんと取り組めた生徒が一定数いる一方で、2割弱の生徒が自らの取り組みを不十分としている。教員側の働きかけをさらに密にして、課題にしっかりと取り組む態度を定着させていきたい。 ③アクティブラーニング(AL)やICT活用への取り組みが、教職員全体にはまだなかなか及んでいない現状である。そうした取り組みを促すための教務部からの働きかけとしては、各種研修会の案内や教材(ジグソー法)の共有化、ICT環境の充実などを行ったが、成果としては不十分であった。公開・研究授業や研修会なども含めて、教職員がALやICT活用に関して知見を深める機会をさらに提供していきたい。 ④生徒間の学力差が大きく、今まで以上に個に応じた指導を行いやすくする校内体制を作っていく必要がある。	・新学習指導要領の趣旨をふまえ、主体的対話的な深い学び、いわゆるアクティブラーニングの実現に向けた授業改善が一層望まれる。商業高校の得意とする、コンピューター教育、課題研究等を柱とした実践が取り組みやすいのではないかと考える。 ・少子化が進行する中、生徒も多様化している。今以上に個に応じた指導が必要であり、チームティーチングや習熟度別学習等を積極的に導入していくことも必要である。 ・アクティブラーニングの取り組みは、生徒が社会に出てからは必要な取り組みだと考える。生徒が自分の考えを言えるようになるのは大いに意義があると思う。 ・アクティブラーニングによる学習を通して、自分で課題を見つけ、思考力にスタミナを付けることにより、実社会でその力を自在に活用できる土台作りをし、更に多様性と創造性を身につけることで新しい社会を作っていける人材に育てていただきたい。 ・一人一人の主体的な学習の見える化が必要である。 ・保護者が普段の授業を参観できるようにしてもらいたい。例えばアクティブラーニングとテーマを決めて、それに特化した公開授業を行ってみたい。どうか。 ・Rubyを使った会計システムやホームページ管理システムの開発に民間企業とともに取り組み、発表会も行われていたが、実際に自分の力を試して、社会で何が求められているかわかる大事な取り組みだと思う。		
				先生は、生徒の授業態度に対してはじめのある指導をしている。	100%	アンケート(生徒⑨)	92%	92%	B					
				①適切な課題による家庭学習の習慣化	わたしは、授業で出される課題や、検定試験に向けた課題に、家庭できちんと取り組んでいる。	70%	アンケート(生徒③)	78%	111%	A				
				生徒に家庭での学習を促すよう、教科指導や課題を工夫した。	90%	アンケート(教員①)	70%	78%	B					
		①研究授業、公開授業等の実施 ②生徒による授業評価の実施 ③ICT環境の活用		先生は、わかりやすい授業や、生徒自身が考える授業づくりに努めている。	90%	アンケート(生徒⑩)	85%	94%	B					
				授業アンケート結果に基づき授業改善に取り組んだ。	100%	アンケート(教員②)	79%	79%	B					
	教育環境の整備	生徒の学習を支援する体制の充実	①授業時間の確保 ②個別指導、補充授業の実施	曜日変更などによる授業時数の確保や、補習計画立案などの個に応じた指導は適切であった。	100%	アンケート(教員⑤)	86%	86%	B					
				アクティブラーニングの導入や、ICT活用を意識した授業実践に取り組んだ。	100%	アンケート(教員④)	54%	54%	C					
	特色ある学校	商業教育の充実	資格取得の支援	商業	①検定補習、合宿の実施 ②検定ロードマップの作成	全商検定1級3種目以上取得率 40%	100%	統計資料	23%	23%			C	⑤3年生の2年次までの取得状況が芳しくなかったため、目標達成に至らなかった。2種目取得の3年生が32名いたが、3年生の授業は直接検定に対応していないため、今後2年次の指導を改善したい。 ⑥ビジネスマナーについては、目標値に届かなかった。フェスタやチャレンジショップ、各種の大会や校外での教育活動では外部の方から高評価を頂いているので、それを生徒に伝え、生徒の自尊感情を高めていく必要がある。松商だんだんフェスタ事業については、実施期間のみでなく、年間を通して日々の学習活動の教材として活用しながら取り組んでいく。
			体験的学習の充実		①ビジネスマナー指導の充実 ②「松商だんだんフェスタ」の充実	ビジネスマナー指導は自分にとって役に立つ。	90%	アンケート(生徒⑫)	86%	96%			B	
「松商だんだんフェスタ」は有意義である。					90%	アンケート(生徒⑧)	90%	100%	A					
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	望ましい生活習慣の育成	生徒	①身だしなみ指導の計画的実施 ②全教職員と生徒会による登校指導と適切な声かけ ③校内外でのマナー(通学マナー)指導の充実 ④校内外での挨拶の励行	毎日きちんと学校に登校する生徒の割合(出席率)	99%	統計資料	98%	99%	B	・挨拶や生活マナーはしっかり指導されており、大きな効果が出ている。毎月実施の「あいさつ運動」の輪を広げ、地域全体が気持ちよい挨拶の出来る明るい町になるよう、商業高校がリーダーシップをとっていくことも大切である。大いに期待したい。 ・生徒は身だしなみに品格があり、学校生活も全体的に落ち着いているよう感じられる。 ・年頃の生徒に画一的な対応では改善に時間がかかり苦心されるところだと思われるが、現場の先生方の創意工夫で、かたくなな心を解し、励まして導いて頂くことをお願いしたい。 ・今年度より、健康管理・美化活動の推進の欄の目標達成のための方策の項目が改善され、保健室の機能がよく理解できるようになりとても良くなった。再検査該当者の方のフォローを引き続きお願いしたい。 ・再検査は小中に比較すると同伴での受診や時間の確保等が難しい中、保護者個人面談時にお伝えしてはどうか。卒業時には自己管理の一環として本人によく伝えて頂きたい。 ・清掃指導の徹底については昨年度B評価だったが、今年度はどうだったのか。清掃についてはおもてなしという意味で大切にしたいところである。			
				非遅刻率	99%	統計資料	100%	101%	A					
				わたしは、高校生らしい身だしなみを心掛けている。	90%	アンケート(生徒④)	96%	107%	A					
		健康管理・美化活動の推進		保健	①健康管理に関する適切な指導 ②教育相談、生徒支援の委員会(さわやか委員会等)の充実 ③清掃指導の徹底	各種検診結果に基づく再検査該当者のうち、受診した生徒の割合(受診結果報告書提出率)	80%	統計資料	43%	54%		C		
	さわやか委員会が生徒支援に有効に機能している。		100%		アンケート(教員⑬)	91%	91%	B						

平成29年度 学校評価表

※達成度は、目標値に対する評価値の割合。(評価値/目標値) ※評価 A(目標達成):100≦ B(ほぼ達成):70≦, <100 C(できていない):<70 ※学校関係者評価 A:達成できている B:概ね達成できている C:できていない

評価計画							学校関係者評価						
評価項目	中期経営目標	短期経営目標	担当分掌	目標達成のための方策	評価指標	目標値(A)	資料	評価値(B)	達成度(B/A)	評価	結果と課題の説明	評価	コメント
								アンケートは1月統計は2月					
生徒指導	人権・同和教育の推進	人権・同和教育の体制作り	図書人権教育・生徒	①人権・同和教育に関するLHRの指導計画立案 ②道徳教育への積極的な取組み ③生徒理解と信頼関係の確立 ④人権・同和教育に関する教職員研修の充実	学校では、面談などを通して生徒理解を行う努力がなされている。	90%	アンケート(生徒⑬)	87%	97%	B	⑩教職員は細やかな事でも見逃さないよう、変化に気づける感覚を磨いていくことが大切で「当たり前」のような事でも、生徒にとっては「頑張っ取り組んだ結果」であることも少なくない。生徒自身が自己存在感、自尊感情が持てるよう生徒理解に努めていく。(生徒部) 教職員への悩みの相談が目標値を下回っているが、近年改善傾向がみられる。生徒意識調査では、多くの生徒の相談相手は友人である。一層の改善のため、教職員による情報収集を積極的に進めて支えていく必要がある。(図書人権教育部)	A	・全教育活動を通して、生徒一人ひとりを多面的、総合的に理解していくことが大切である。生徒の良さを見いだそうとする姿勢のもと、共感的理解を深め、生徒との信頼関係を構築していくことが強く望まれる。 ・人権教育を基底にすえた取り組みについて保護者(PTA)を巻き込んだ形で行ってはどうか。”人を大切にする”教育が日ごろの挨拶やビジネスマナーにも繋がってくる。
				学校では、教職員に悩みなどを相談できる雰囲気がある。	70%	アンケート(生徒⑭)	55%	79%	B				
				人権同和教育に関する教職員研修は有益であった。	80%	アンケート(教員⑳)	90%	113%	A				
進路指導	進路希望の実現	進路の実現のための支援体制作り	進路指導	①一人ひとりに応じた進路指導(進学補習・小論指導・面接指導等) ②生徒および保護者への進路情報(進路の手引・進路だより・進路行事等)の提供と活用 ③ハローワーク、松江市との連携による求人開拓 ④企業訪問等によるミスマッチの回避	在学中に就職先を内定する生徒の割合(内定率)。	100%	統計資料	100%	100%	A	⑪就職は昨年度の82名から73名と希望者数は減少したが、割合は昨年同様だった。求人数はさらに増加し、一般事務職を中心に年内にはほぼ100%近い内定となった。進学は、推薦入試(指定校や専願)と資格を生かした入試(専門高校推薦入試)を中心に、希望する進路先を決定することができた。	A	・県内企業は松商生徒に大きな期待を寄せており、その期待に応えるべく、今以上に即戦力となる有為な人材を育成していくことが強く望まれる。 ・県内就職率が高く、この島根県最大の問題「人口流失」に歯止めをかける貢献をしており大変感銘を受けた。大学に行っても松江に帰ってくるようにアドバイスしてもらおうと嬉しい。 ・有能な人材が教員として学校に戻ってこられるサポート枠があれば学びの励みになるのではないかとと思う。 ・企業経営者や商業高校卒業生の生の話を聞く機会を作ると合わせて、職場体験のさらなる充実を図り、今以上に即戦力となる人材を育成していくことを強く望む。
				望ましい勤労観・職業観の育成	在学中に進学先を決定する生徒の割合(合格率)。	100%	統計資料	100%	100%	A			
		①地元企業説明会の実施 ②進路座談会、進路講演会等の実施 ③進路の手引きの有効利用 ④企業訪問の実施		学校から提供される進路情報は、自分の進路を考える上で役に立つ。	90%	アンケート(生徒⑪)	87%	97%	B	⑫進路行事を通して、進路情報の動機づけや提供の場を増やすように努め、学年部と連携していきたい。			
特別活動	豊かな心の育成と情操の涵養	部活動の活性化	生徒	①各自の目標達成への支援 ②総体パワーアップ週間の実施	部活動加入状況	90%	統計資料	93%	103%	A	⑬他校に比べ部活動の活動は盛んである。ただし、部活動が学校生活の全てではなく、学習活動や資格取得などに組み入れる時間確保といった進路保障も重要である。部活動を通じて豊かな人間形成を図りながら、将来の進路に向けて自己実現が図れるよう支援していく。	B	・部活動の活性化は学校全体の活力に繋がる。教員の好指導により大きな成果を上げていることに感謝する。一層の活躍を期待する。 ・部活動が活発な商業を目指し入学した生徒を応援してもらいたい。部活動で学ぶものは大きいと思う。心を育ててほしい。 ・部活動活性化には教員の指導の充実と、部活動指導員の活用が不可欠である。施設や用具も整備し、環境を整える必要がある。 ・読書活動は生徒の感性を磨く上で極めて大切である。まずは、生徒たちが図書館へ喜んでやってくる方法から考えて欲しい。 ・これからは、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携し実現させていくことが強く望まれている。生徒会活動は、執行部を中心とし校内において積極的に行われているが、今後は、多くの生徒が校外に出て、ボランティア活動や地域の人々との幅広い交流など社会貢献や社会参加に関する活動を積極的に行っていくことが大切である。
		読書習慣の育成	図書人権教育	①読書センターとしての役割を果たす ②学習・情報センターとしての役割を果たす ③朝読書をはじめとする読書活動の推進	図書館には読みたい本や調べ物に適した本が揃っている。	60%	アンケート(生徒⑯)	56%	93%	B	⑭蔵書はほぼ生徒の希望を満たしている。今後も購入や他の図書館からの取り寄せを通してニーズに応えたい。一方、蔵書内容などが知られていないこともあり、利用生徒が限定されている。図書館からの発行物を増やしたり、過ごしやすい環境を整えるなど、さらに努力をする必要がある。		
	他人を思いやる心、感動する心の育成	生徒会活動の活性化	生徒	①全校生徒、教職員が一体となった学校(生徒会)行事への取組み ②各種委員会活動など生徒主体の活動の企画・実施	わたしは、クラスの委員や係、または生徒会の活動に積極的に取り組んでいる。	70%	アンケート(生徒⑤)	71%	101%	A	⑮球技大会、瑞木祭等生徒が主体となって、教職員とともに各行事を成功させることができ、大きな成果を残せた。各種委員会については、取り組み状況に差が生じた面もあったため、委員会開催時に行事内容の立案と計画について検討する必要もあった。		
信頼される学校	開かれた学校づくりの推進	保護者との連携の推進	総務	①保護者面談の実施 ②保護者への文書による情報提供の充実 ③PTA活動の充実・推進 ④ホームページの定期的更新、メールマガジンの発行 ⑤PTA会報の発行	学校は、文書・ホームページ・メールマガジンなどを通じて情報を提供している。	80%	アンケート(保護者⑥)	91%	114%	A	⑯高い評価は、ホームページの情報を頻繁に更新したこと、メールマガジンを毎週送信できたこと、各分掌から適切なタイミングで案内文等が配布できたためと思われる。今後もこれを継続しつつ、担任による生徒・保護者面談等も含め、学校と家庭の連携を強化したい。	A	・学校のPRはしっかりなされているが、今後さらにあらゆるマスメディアを通して情報を提供していくことが必要である。平素の地道な広報活動が志願者確保にも繋がるのではないかと。 ・松商だんだんフェスタの告知・清掃ボランティア・福祉施設の見学など様々な経験談をホームページを中心に学校行事をタイムリーに情報発信をしているのは、今後地域連携を密にする為にも大変よいと思う。校長のメッセージも頻繁に掲載されていてよかった。 ・防災訓練・AED使用訓練などの校内研修訓練などは定期的実施する必要がある。不審者対応訓練も3年に1回程度は実施していく必要がある。 ・近年、SNSによる事件事故が多発している中で、その指導の充実にも努めていく必要がある。 ・校内に留まらずボランティア活動や地域貢献、社会参画に関する活動を充実させることが松商の魅力アップさせる。それには教員が率先して、地域に出かけ、研修を積む必要がある。また、カリキュラムの中に取り込めるか考えてほしい。その上で休みの日に個人的に参加する生徒が増えれば、教育が生きていることになる。
		地域との連携の推進	生徒	①地域に貢献する活動への積極的な参加	わたしは、今年度、ボランティア活動に参加した。(部活動や生徒会単位の地域清掃などの活動も含む)	40%	アンケート(生徒⑧)	30%	75%	B	⑰清掃ボランティア活動(振商会館、通学路、近隣公園)に、部活動単位で多くの生徒が参加した。PTA役員を中心に多くの保護者にもご協力頂いた。また福祉施設への訪問なども行った。今後も、生徒が主体的、自主的に活動できる内容を検討していきたい。		
	危機管理意識の向上	危機管理体制の確立	保健・生徒	①危機管理に対する校内研修の実施 ②環境整備の充実 ③情報モラル教育の推進	救急法の教職員研修は、有益であった。	80%	アンケート(教員⑱)	86%	108%	A	⑱高い評価を得ているので、今後も継続して取り組みたい。		
					情報モラルの教職員研修は十分行われた。	80%	アンケート(教員⑳)	86%	108%	A	⑲スマートフォン、パソコンが普及している現状で、外部講師による全学年対象の情報モラル研修は実例を踏まえた内容で成果があった。個人情報の取り扱いやネット中傷などの犯罪事例についても理解を深めることができた。(生徒部)		
					安全点検や清掃用具の点検・整備が行われ、環境整備が適切に行われた。	80%	アンケート(教員㉒)	86%	108%	A	⑳事務部の迅速な対応で概ね整備ができた。今後も保健部と事務部で連携した取り組みを進めていく。		